※本書内容は全て開発中の物です。

# SYSTEM

## I. ゲームについて

ストーリーを読み、選択肢を選んで好感度を高めていく、オーソドックスなノベルゲームスタイル。
日常パートと接客パートを繰り返して、お気に入りのキャラクターの好感度をあげていこう！

## ▼体毛切替

体毛が苦手な方にも楽しんでいただけます！

※体毛オフはスチル時のみです。
また、全ての体毛がなくなるわけではございません。

## V. 固有スチル解放

キャラの固有エピソード内ではストーリーと共にスチルを楽しめる！

好感度が深まるにつれて、スチルの内容もえっちなものに♥

## II. 日常パート

主人公を取り巻く様々なキャラクターたちと共に過ごす日常パート

お気に入りのキャラクターの思わぬ一面を見ることも！？

## III. 接客パート

アサヒが営む料理店『Norn's Dine』には様々なキャラクターが訪れる。お気に入りのキャラクターを選択して、会話を楽しむことで好感度がアップ！

会話中の選択肢による好感度の変化はなし！様々な会話を楽しもう！

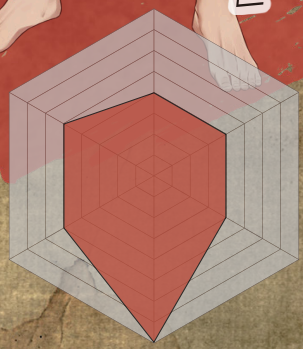
## IV. 固有 EP パート

キャラクターの好感度を高め、絆を深めていくと、キャラクターの固有エピソードが発生！
エピソードが進むとアサヒとキャラクターは更に親密な関係に！

MAIN CHARACTER

# 運命定まらぬ

「運命を信じないわけじゃないけど、
俺は俺の意思で選びたいんだ」




## Asahi
## アサヒ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 23 歳 | 誕生日 | 1/1 |
| 身長 | 175cm | 体重 | 72kg |

Illstrator：はいき

# 無垢の運命

「アサヒさん……
なんか良い匂いがするッス……」

## Rito
## リト

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 20 歳 | 誕生日 | 2/27 |
| 身長 | 190cm | 体重 | 100kg |

Illstrator：かうべる牛頭夫

# 高潔の運命

「これが欲しいと、言ってくれたな」

## Frederick
## フレデリク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 35 歳 | 誕生日 | 3/3 |
| 身長 | 190cm | 体重 | 110kg |

Illstrator：一十

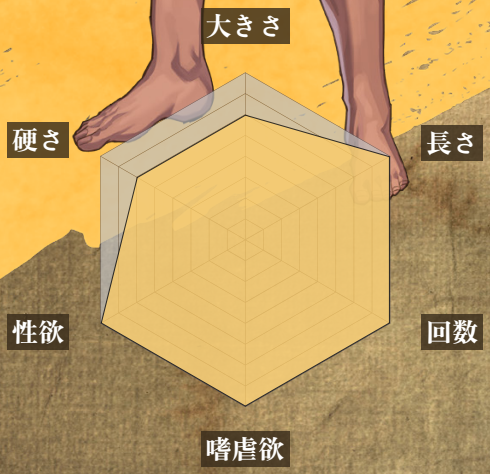
# 淫蕩の運命

「気持ち良くなりてえんだろ、なぁ」

## Grant
## グラント

| 年齢 | 36 歳 | 誕生日 | 7/5 |
|---|---|---|---|
| 身長 | 188cm | 体重 | 95kg |

Illstrator：nullQ



# 終焉の運命

「俺を兄と呼ぶのは、もうやめろ」

## Lucas
## ルーカス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 28 歳 | 誕生日 | 12/31 |
| 身長 | 185cm | 体重 | 88kg |

Illstrator：はいき

# 探求の運命

「アサヒ！　もう一回、
いや二回……三回だけ!!」

## Giulio
## ジュリオ

| 年齢 | 24 歳 | 誕生日 | 8/28 |
|---|---|---|---|
| 身長 | 178cm | 体重 | 80kg |

Illstrator：有馬瓶

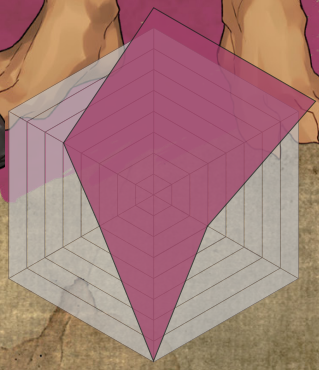
# 希求の運命

「……そうだ。俺のところまで堕ちてこい」

## Orfeo
## オルフェーオ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 40 歳 | 誕生日 | 11/15 |
| 身長 | 203cm | 体重 | 150kg |

Illstrator：Taro Bandit



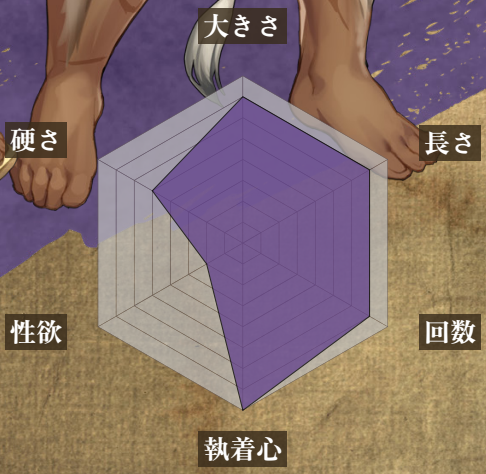
# 呪縛の運命

「ごほうびをくれ、『あるじ』」

# Shido
## シドウ

| 年齢 | 32 歳 | 誕生日 | 5/4 |
|---|---|---|---|
| 身長 | 199cm | 体重 | 125kg |

Illstrator：かうべる牛頭夫



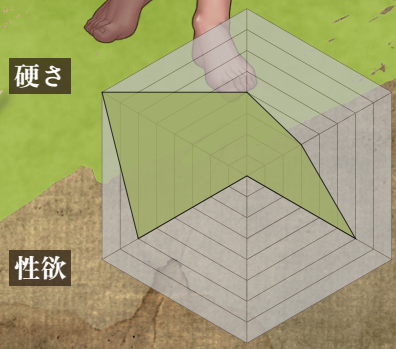
# [redacted]の運命

「本能には忠実にってな。
楽しまなきゃ損だぜ？」

## Laplace
## ラプラス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | いくつに見える？😏 | 誕生日 | 6/6 |
| 身長 | 173cm | 体重 | 70kg |

Illstrator：一十



「理由など、私には関係ありません。
ボスの命令だからです」

# Ewry
# ユーリ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 29 歳 | 誕生日 | 11/1 |
| 身長 | 195cm | 体重 | 95kg |

Illstrator：はいき

「余計な会話はするなよ、
店主。お前もだ」

# Sigurd
# シグルド

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 37 歳 | 誕生日 | 1/13 |
| 身長 | 188cm | 体重 | 85kg |

Illstrator：むに

「勝手な事をしては駄目よ。
……あなたの悪い癖ね、ヒルダ」

# Lia
# ライア

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 12 歳 | 誕生日 | 4/1 |
| 身長 | 142cm | 体重 | 失礼ね |

Illstrator：むに

「二名様ご来店ですわ！
席に案内してくださいますこと!?」

# Hilda
# ヒルダ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | 27 歳 | 誕生日 | 12/13 |
| 身長 | 190cm（ヒール込みですわ！） | | |
| 体重 | 秘密ですわ！ | | |

Illstrator：はいき

「ただの料理屋の癖に根性あるじゃねえか、
そういう奴は好きだぜ」

# Wilhelm
## ヴィルヘルム

| 年齢 | 28 歳 | 誕生日 | 3/6 |
|---|---|---|---|
| 身長 | 187cm | 体重 | 82kg |

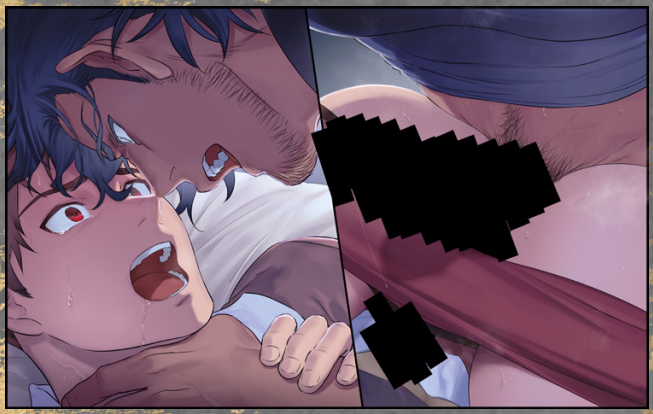
Illstrator：一十 / はいき

「少し時間はありますか？
お話を伺いたいのですが――」

# Noah
## ノア

| 年齢 | 27 歳 | 誕生日 | 12/13 |
|---|---|---|---|
| 身長 | 165cm | 体重 | 58kg |

Illstrator：一十 / はいき



⚠実際のゲーム画面ではモザイク処理となります

⚠実際のゲーム画面ではモザイク処理となります

# 『Alfr or Vanr』

「――総員伏せ！『団結（スクラム）』!! 『連結（リンケージ）』!!」

フレデリク団長の号令にあわせて、上級騎士達が一糸乱れぬ動きを見せる。

新人騎士の俺は、その様子をただ唖然とみつめるしかない。

目の前で、砂の大瀑布が天に向かって突き抜ける。大盾を構えた騎士達の向こう側に吹き上がるその巨大な姿が見えた。

「な、なんだあれ――――!!!!」

思わず声をあげてしまい、横にいた熊の特性を強く持つハーフビーストの先輩騎士にこずかれる。

あんな大型の魔獣を見たのは、はじめてだ。

土と共に噴き上げられた小さな魔獣が、闇のように開けたその大穴に呑み込まれていく。

トカゲと形容するには自在過ぎるその動き。地面から吹き上がったというより飛翔してきた何かのようだ。

「地龍（バジリスク）か」

「ほう……これはこれは、見事な個体でございますな」

「小物目当てに集まる魔獣の群れ、その魔獣の群れを狙ってさらなる大物が……ということだな」

フレデリク団長とヒューゴ副団長は至極冷静に話し合っているが、俺の膝はそれどころではない。

生まれたての子鹿のように小刻みな律動を刻み続けている。

「新人、落ち着け。良いから落ち着け。前線にいるわけじゃないんだから、俺達は後方支援。わかるな？」

「ひゃっ、ひゃい!!」

先輩騎士から声をかけられ、ようやく足の震えも少しずつおさまっていく。

そう、騎士団に入ってまだ間もない俺の任務は、後方での負傷者の救護や物資の運搬。

今日は、アスガルド周辺で増えすぎた魔物たちの討伐任務だったはずなのだが、目の前には信じられない大物が……。

俺を励ましてくれる先輩の手も、良く見れば堅く握りしめられている。

そうこうしているうちに、あらかた辺りの魔獣を食い散らした地龍の体が大きく跳ねる。

上級騎士達が一斉に此方に向けて走ってくる。一度撤退して作戦を立て直すつもりなのだろう。

そう思っていたのだが――。

砂煙の中をフレデリク団長が駆ける。騎士達とは逆方向、地龍の元へ一直線に。

「団長!?」

思わず声をあげてしまったのは俺だけではなかった。

俺の周りの下っ端騎士達が皆一様に声をあげる。

だが、そんな声など聞こえていないかのように一気に地龍の前に躍り出た団長は地龍と相対しながら大剣を構えた。
地竜は素早く駆けながら、団長めがけて突撃してくる。
団長を脅威と認めたのか、それともただ貪欲な本能に従ってあたりの魔獣を群れごと呑み込もうとでもいうのか。
団長は、まだ動かない。大剣を握る腕、そして全身に力を込めて。
僅かにちらつく青い光は団長の魔力の煌きか、わからない、けど――。
「はあああああッ!!」
太陽の輝きがその刀身に閃いたかと思った次の瞬間。
「ふんっ!!」
裂帛の気合と共に団長の剣が一閃し、斬撃と共に団長はその身を躍らせた。
肌をビリビリと震わす爆音があたりに響き渡る。
砂嵐が立ち上り視界を遮る。砂嵐が収まった後に見えた光景といえば、両断された地龍の体と、鞘に大剣を収める団長の姿だった。
「凄いだろう新人、ウチの団長は」
「は、はい！」
凄いなんてもんじゃない。強い人だとは思っていたけどその強さを目の当たりにしてもまだ実感が湧いてこない。
そんな俺と同じ気持ちだろう後方支援の騎士の元へと、ヒューゴ副団長とフレデリク団長がゆっくりと歩いてくる。
「さて、遅くならないうちに撤収しましょう。回収その他の処理は他の部署に任せるとして経理に交渉して第2小隊には特別報酬を支給、構いませんな」
「ああ、皆よくやった」
フレデリク団長が俺達に向かって労いの声をかけてくれた。
騒がしかったあたりには一瞬の静寂が訪れて――。
「うおおおおおおおッ!!!!」
荒地を震わせるウォ―クライ。騎士団全員によるそれは、戦闘中よりも激しいくらいで思わず背筋が跳ねた。
魔獣との戦いにおける前線都市にして最後の砦たるアスガルド。
戦いに疲れた体に重い鎧を纏って家路を目指す俺達。夕日が騎士の鎧を黄金に照らす。
茜色と濃紺の入り混じる帳の下、街の灯の明かりが灯る。あそこがみんなの帰る場所だ。
帰る場所を守った誇りと心地よい疲労を身にまとって、笑いながら家路を目指す。
これが団長が大事にしている騎士団の姿だ。
「よし！　もう解散でいいんだな！　特別手当も出たことだ！　みんなで――」
成程酒か。

確かに、腹も減っているし、盛大に酔いたい気分だ。前線で戦っていない俺でも魔獣の討伐で気持ちは昂っている。先輩騎士と酒を酌み交わし話を――。

「えっちなお店に行くぞ――!!」

「?・?・?」

あたりに張り詰めていた空気が一気に下世話なものになった。

どうやら先輩たちはこれから特別手当を握りしめ、夜のお店に散財をしにいく算段らしい。

「アマンダさんを一晩俺の物に……!」

「お、俺はダムドさんの逞しい胸で、よ、よしよしして貰うんだ……!」

「ボルフ君を一晩中モフモフしてやる……くッ、あの尻尾と腹の毛の感触がたまらないんだ……!!」

趣味と性癖の乱れ飛ぶ会話になってきたな……。さっきの俺の感動を返して欲しい。

夜のお仕事は立派な仕事だ。特に肉体労働者や冒険者の多いアスガルドではそういう店は公的にも認められている。

娼婦・娼夫の皆さんは皆大層見目が良く、話が上手くて、優しい人達が多い。(まぁ優しくされたくないという性癖向けのお店もあるけれども……)

アスガルドという地で働く人達の心と体を癒す縁の下の力持ちだ。

「びっくりしただろ新人。冒険者もだが、俺達騎士も命のやり取りがつきまとう仕事。だから、どうしてもこう……な?」

近くに来ていた俺よりも遥かに逞しい肉体を持つ上級騎士達に声をかけられ、背筋が自然と伸びてしまう。

「あっ、いえ。ちょっと驚いただけで先輩達の気持ちもわかりますので……」

「話が分かるな新人! そうだ、お前だって格好いいお姉さんに縛られたくなるだろ!?」

「ならないです、多分」

「それなら、包容力のある男が好みか? 逞しい牛獣人の温かい胸板で目覚める朝の心地よさといったら……」

「え、ええと」

すごく答えにくい。

「こら、お前たち――」

その声で、白銀の鎧と金髪が眩しい団長がいつの間にか近くにいたことに気づく。

「団長はどうですか! 『気まぐれ妖精(アルヴ)の宿屋』と『ヴァンの篝火』どちらがお好みで?」

冒険者に比べれば規律のある集団ではあるが、結局のところ騎士も『タイイクカイケイ』なるノリだ。それが瞬時に団長に飛び火した。

ヴァン――ヴァンニル。かつて終焉に大地を焼き尽くしたとさ

れる伝説の巨人族。転じて雄々しい男性を指すこともある言葉。
妖精（アルヴ）はセクシーなお姉さん方が中心で、ヴァンの篝火と言ったらがっしりした肉体派の娼夫が多い事で有名な店だ。
（……あ――）
散々周りの会話を下世話と言っておきながらも、その質問には俺も意識を引寄せられてしまった。つまりは、だって。
団長は女性と男性のどっちが――。
「いや、遠慮しておこう。付き合いたいのは山々だが、今日はこの後友人と約束があってな」
成程。貴族らしいスマートさで明確な返答を避ける団長。
だよな、というか。やっぱり団長は違う。仲間との付き合いも無下にせず上手に断っているんだろう。
と思っていたら。
『ヴァンの篝火』には一度だけ付き合いで行ったことはあるが。色々あって行きづらくなってしまってな。そういう訳だ、お前たちだけで楽しんでくるといい。……くれぐれも店に迷惑をかけないように。羽目を外しすぎるなよ」
行きづらい、それはどういう――。
「……まさか出禁？　団長が？」
「まあそうだよな、あの団長の相手をするなら篝火の連中ぐらい体力がねえと駄目だろうな、しかし」
「で、出禁……？」
「い、いや新人！　声がでかいぞ！　いくら何でもあの団長が出禁になるような騒動を起こすわけが、だとしたら」
「団長の……たしかにえげつなくデカくて太いけど……そうか……出禁になる程か……」
「そ、そうなんです……!?」
いつの間にか飛んできた更に下世話な会話に巻き込まれたので俺も同じ穴のムジナになってしまった。
まあこういう会話が嫌いなわけじゃないけど。
団長の持ち物がとんでもなく大きいかもしれないとか、団長の嗜好は男よりだとか。
娼館に行きづらくなるほどの何かがあったとか、ちょっと入ってくる情報が多すぎる。
街の中へと入り、テンションの上がりきった立派なはずの上級騎士達が仲良さげに明るい通りへ歩いていくのを見送る。
団長と副団長は何か言いたげではあったものの、何も言わずにそのまま騎士団本部の方へと歩いていった。
俺はどうしたものかとその場にぽつんと立ちつくしてしまう。
すると、討伐の現場で一番近くにいたハーフビーストの先輩騎士が俺に声をかけてきた。
「悪いなって俺が謝るのもおかしいんだけどな。どうしても大きな任務を終えた後には、ああいった話題も必要なわけだ」
「いえ、別に不愉快に思っているわけでもないですし、それこそ先輩が謝る必要なんてありませんよ」

「それはそうなんだが……」
「ただ……ぼんやり、というかなにか持て余してしまいますね。自分のこととなるとこう……」
「ふむ？　もしかして、お前はそういう経験がないのか？」
直球を投げかけられて、一瞬固まる。だが、すぐに顔が熱を持っていくのがわかる。
別に気取るような事でもないのだろう。異性の体は綺麗だな、って感じるし。同性の体に憧れを感じることもある。
だけど……。
「そっ、そんなことありますというかないというか……。でっ、でもそういうのにはちゃんと興味ありますから、ちゃんと」
「ふむ、なるほど――それなら、お前は『アルヴ』かな？　それとも『ヴァンニル』が？」
「え、えっと……それは」
どうしてだろう、声が出ない。
ところでなんで先輩は俺の手を取っているんだろうか。
騎士として鍛えた俺のそれより更にたくましい先輩の体、そして上背のある俺よりも更に上にある目線。野性味のある精悍な顔立ちとちょっと生えてきている無精髭。
熊のハーフビーストらしい、ぶっとい腕と俺の手を包みこんでしまう大きな手。
茶色い髪の中で僅かに揺れる熊の耳に目を奪われる。
嘘だろ。なんで俺の心臓の鼓動は早くなってるんだ……。
「ハーフビーストは好みじゃなかったか？　獣人や人間の方が好きなのか？」
え――。先輩そういう感じの人じゃなかったよな？
俺に対してそんな気配もなかったよね!?
なんて答えりゃいいの!?　心の準備をする時間をくれ!!
「悪いな。俺もちょっとばかり昂ってててな。だがからかっているわけじゃない。さて、質問に答えてくれるか？　お前は『アルヴ』かな？　それとも『ヴァンニル』が？」
「せっ、せんぱ――」
「俺は、お前が……」
堅く握られたままの俺の手。そこからは先輩の気持ちが直接伝わってくるようで……。
どうしてこうなった。
だが、俺の中でなにかの答えがでてしまいそうなのは事実。
とりあえず……とりあえずまずはお話を、とそうもいかないのかもしれないけれど。
ええい、こうなったら俺は流されるぞ!!　別に先輩のこと嫌いじゃないしな！「先輩、俺は――」

Fin.

# CREDITS

**企画** HIC*(はいき/一十/かうべる牛頭夫/茶柱一号)

**イラスト** 有馬瓶/一十/かうべる牛頭夫/Taro Bandit
nullQ/はいき/むに

**シナリオ** 雨森玉虫/風祭おまる/sada/Sukuné/茶柱一号

**背景** asada.31/かたらな **BGM** 幹太/puku2

**コンセプトアート** chappy

**タイトルロゴ** ソーイチ **UI・スクリプト** 大山田制作所

**HP** Δ/いのり **動画制作** Δ/ロノン

**メインスクリプト** さくた **Special Thanks** 遊茶

**デザイン・シナリオ監修** HIC*

## 2024年 発売予定！！

サークル HIC

発行日 R6/6/1
印刷 gr@phic

無断転載、複写、複製、配布
などの行為を固く禁じます。

HP

X

支援サイト

PIXIV FANBOX

hichicgames@gmail.com